

『YNU書き言葉コーパス』から見た 複合動詞の使用実態

—日本語母語話者と中国人学習者との比較—

志 賀 里 美

A Survey of the Actual Usage Compound Verbs in YNU Corpus — Contrasting Japanese Speakers and Chinese Japanese —

Satomi Shiga

キーワード：日本語教育、複合動詞、使用実態、中国人学習者、『YNU書き言葉コーパス』、

Keywords :Japanese language teaching, compound verbs, usage, Chinese Japanese learners, corpus

1. はじめに

「食べ切る」など「動詞+動詞」のものを複合動詞といい、日本語教育学会編『新版 日本語教育辞典』(大修館書店)で複合動詞という項目を引くと、「動詞との結合は多様で、造語力もあり、重要である。」と記載されている。永井(1996:140-141)は、複合動詞は「動詞単独では表わしきれないことを表現するという重要な役割を担っている」と述べており、学習者から、「なぜ複合動詞の学習が必要なのか」という質問を受けた際には、「動詞にある意味を加えるときに必要」と説明しているという。また、姫野(1975)では、「複合動詞の使用が少ないと語彙的にどことなく単調で幼い感じを受ける」

と述べている。従って、表現を豊かにするためには、複合動詞を使用する必要があると言え、中上級レベルともなれば、日本語学習者も習得しなければならない項目であると考えられる。

また、陳(2007)は、「複合動詞教育や習得支援の方向性を探るためには、まず学習者の使用状況を調査することが必要」であり、そのためには、日本語学習者の話し言葉における複合動詞の使用状況を調査すべきであるとし、「母語話者コーパス」と「学習者コーパス」という2つのコーパスを用い、話し言葉における複合動詞の使用状況を調査している。その結果、使用場面や学習者のレベルの関係で、普段日本語母語話者があまり使用しない複合動詞も多く見られ、更なる調査が必要であることが判明した。

複合動詞の前項動詞(「食べ切る」の「食べ」)と後項動詞(「食べ切る」の「切る」)の結合条件や意味分類に焦点をあてた研究には、長嶋(1976)、寺村(1984)、影山(1993)、由本(2005)など多数あるが、複合動詞の習得に関する研究は、永井(1996)、陳(2006、2007、2008)などそれほど多くはない。

そこで、本研究では、『YNU書き言葉コーパス』を使用し、中国人学習者はどのような複合動詞が使用でき、反対にどのような複合動詞が使用できていないのか、日本語母語話者との使用状況と比較をし、習得状況を明らかにしていきたい。

2. 『YNU書き言葉コーパス』と分析方法について

『YNU書き言葉コーパス』とは、横浜国立大学が作成した書きことばコーパスのことで、「日本人大学生30名、留学生60名(韓国語母語話者30名、中国語学習者30名)に対し、12種類のタスクを課すことによって得た計1,080編の作文を、コーパスの形にまとめたもの(金澤編2016: iii)」である。

このコーパスは、①同世代の日本語母語話者と比較でき、②学習者も上位群(以下「H」と記す)、中位群(以下「M」)、下位群(以下「L」と記す)の三つのグループに10名ずつ分けられていることが大きな特徴として挙げられる。なお、調査対象の学習者は三つのグループに分けられてはいるが、概ね日本語能力検定N2以上、もしくは2級以上の者で、比較的上級レベルの学習者である。

12種類の与えられたタスクの指示文には母語訳が与えられる。そして、作

文を書く際には辞書の使用は認められておらず、手書きで書く。制限時間は設けておらず、自分のペースで書きすすめたものをデータ化したコーパスとなっている。

今回の調査対象には、「タスク10」「タスク11」「タスク12」の3種類から複合動詞を抽出することにした。「タスク10」「タスク11」は、同じ内容だが、メールの送り先が教師と友人と異なる。複合動詞は、姫野（1975）の指摘にあるように「複合動詞の使用が少ないと語彙的にどことなく単調で幼い感じを受ける」とあることから、場面による改まり度によっても使用に差が出ると思われる。そのため、送り相手の異なる「タスク10」「タスク11」を対象にした。そして、「タスク12」は、このコーパスの日本語母語話者30名分の12種類の全てのタスクの中で比較的複合動詞の使用が多く見られ、また、「七夕伝説」というストーリーを読んでから作文を書くため、日本語母語話者も中国人母語話者も同一状況での使用実態が考察できると考え、調査対象とした。

手順としては、まず、「タスク10」「タスク11」「タスク12」の3種類のタスクから複合動詞を抽出し、その後、日本語母語話者と中国語母語話者30名分のデータを分析した。

なお、それぞれのタスクの内容は以下の表1とおりである。

【表1 「タスク10」「タスク11」「タスク12」の内容】

タスク	内 容
タスク10	<p>あなたは、英語教育が専門の山下教授から次のようなメールをもらいました。</p> <p>教授「〇〇さん 今早期英語教育に関する意識調査を行っているところです。小学校3年生から週2時間英語の授業を行うという計画があります。〇〇さんは早期英語教育に賛成ですか。それはなぜですか。若い人の生の声を聞きたいので、〇〇さんの意見を教えてください。〇月〇日までにお返事ください。よろしくお願いします。」</p> <p>このメールに対する返事を書いてください。</p>

<p>タスク11</p>	<p>あなたは、仲のよい友達（佐藤さん）から次のようなメールをもらいました。</p> <p>友達「〇〇さん 今、卒論のために早期英語教育に関するアンケート調査をやったんだけど、もっと具体的な意見を聞きたいなと思って…。今さ、小学校3年生から週2時間の英語の授業をやるっていう計画があるんだけど、知ってるよね。</p> <p>〇〇さん、早期英語教育に賛成する？それとも反対？理由を教えてくださいかな。〇月〇日までにメールで返事もらえるとうれいんだけど。よろしくお願いまーす。」</p> <p>このメールに対する返事を書いてください。</p>
<p>タスク12</p>	<p>あなたは、小学校新聞の昔話コーナーで、今の季節に合う昔話を書いてほしいと頼まれました。新聞の発行が7月なので「七夕伝説」のストーリーを書くことにしました。小学生にわかるように、どのような話が詳しく書いてください。（★事前に母語による「七夕伝説」を読ませておく。）</p>

抽出した複合動詞は、基本的に「動詞+動詞」（「降り始める」「見付ける」「出会う」¹など）のものを対象とし、抽出した。だが、いわゆる敬語（「申し上げる」、「差し上げる」など）や「行き来する」などの漢語サ変動詞は除外した。

3. 日本語母語話者と中国語母語話者の全体の使用状況

まず、全体の使用状況を見てみる。以下の表2は、日本語母語話者（表では「J」と示す）と中国人学習者（表では「C」と示す）の作文から複合動詞を抽出した数を表にまとめたものである。表には左から、学習者のレベル（中国人学習者のみあり 上位群「H」、中位群「M」、下位群「L」）、学習者番号、課題のタスク10（T-10）、11（T-11）、12（T-12）に出現した複合動詞の出現数、複合動詞の出現数の合計を記し、一番下には複合動詞の使用の有無が入っている。

なお、中国人学習者の場合は誤用もあるため、誤用の数は「—〇」で記す。例えば、タスク10の「C058」の学習者は複合動詞の使用がないが、複合動詞の誤用があったため「0/-1」となっている。

【表2 3種類のタスクにおける複合動詞の使用状況】

J					C								
学生	T-10	T-11	T-12	総計	レベル	学生	T-10	合計	T-11	合計	T-12	合計	総計
J001	1	0	3	4	H	C001	1	6	1	6	1	28	3
J002	2	1	4	7		C002	0		0		1/-1		1
J003	1	0	2	3		C003	2		0		4		6
J004	1	1	2	4		C033	0		0		2		2
J005	0	0	3	3		C039	0		0		7/-1		7/-1
J006	1	0	5	6		C046	3		1		5		9
J007	0	0	7	7		C047	0		0/-1		1		1/-1
J008	0	0	3	3		C048	0		1		2		3
J009	0	2	5	7		C049	0		1		1/-1		2/-1
J010	0	0	3	3		C058	0/-1		2		4		6/-1
J011	0	0	8	8	M	C005	0	7	1	6	2/-1	11	3/-1
J012	1	1	2	4		C006	2		1		2		5
J013	1	0	4	5		C010	0		0		0		0
J014	0	0	2	2		C038	1		1		1/-1		3/-1
J015	1	0	5	6		C040	0		1/-1		0		1/-1
J016	0	0	6	6		C042	0		0		0		0
J017	2	0	5	7		C043	3		0		1		4
J018	0	0	4	4		C054	1/-1		0		3		4/-1
J019	0	0	2	2		C059	0		2/-1		1		3/-1
J020	1	0	4	5		C061	0		0		1		1
J021	1	0	4	5	L	C008	0	0	0	1	2	10	2
J022	0	0	1	1		C012	0		0		2/-1		2/-1
J023	0	0	4	4		C013	0		0		1		1
J024	2	0	0	2		C020	0		0		1		1
J025	0	0	2	2		C022	0		0		1		1
J026	0	0	7	7		C025	0		0		0		0
J027	0	0	6	6		C026	0		0		0		0
J028	2	0	2	4		C036	0		0		0/-1		0/-1
J029	0	0	1	1		C045	0		0		1		1
J030	0	0	3	3		C050	0		1		2/-1		3/-1
総計	17	5	109	131	総計		13/-2	13/-3	49/-8	75/-12			
使用無	17人	26人	1人		使用無		22人	19人	6人				
使用有	13人	4人	29人		使用有		8人	11人	24人				
合計	30人	30人	30人		合計		30人	30人	30人				

複合動詞の使用数を比較してみると、日本語母語話者は131例、中国人学習者は75例と倍近くの開きがあり、やはり母語話者の使用が圧倒的に多い。複合動詞は場面により使用されないこともあるとの指摘があるが、今回は、日本語母語話者の使用が見られることから、単に複合動詞を使用するような文脈の場面でなかったため、学習者に使用が見られないということではなく、学習者が複合動詞を習得できていないためだと推測できる。

ただし、各タスクにおける使用数を見てみると、タスク12においては、日

本語母語話者の使用が109例、中国人学習者の使用が49例と差が大きいのだが、タスク10は日本語母語話者の使用例が17例に対し、中国人学習者は13例とそれほど大きな差はなく、さらに、タスク11においては、日本語母語話者は5例、中国人学習者は13例と逆転し、中国人学習者のほうが複合動詞の使用をしている。これらの原因については、次節以降の各タスクにおいて考察していくが、タスク（場面）により、複合動詞の使用のしやすさが異なることも分かる。

また、各人の使用状況を見ていくと、タスクごとに使用の有無があるものの、日本語母語話者はすべての人が3種類のいずれかのタスクにおいて複合動詞を使用しているが、中国人学習者は3種類のタスクすべてにおいて使用していない学習者が4名（C010、C042、C025、C026）いる。

中国人学習者の使用をレベル別に考察すると、やはり上位群は誤用もあるもののすべての学習者に複合動詞の使用が見られるが、中位群と下位群には、それぞれ使用が見られない学習者が2名ずつ（C010、C042、C025、C026）いる。また、複合動詞の総使用数（タスク10、11、12の合計）自体も上位群は40例であったのに対し、中位群24例、下位群は11例である。つまり、上位群は比較的使用できており、使用できていないのは中位群以下と、レベルが下がるにつれ使用できていない傾向が見て取れる。永井や姫野の指摘どおり、複合動詞は「動詞単独では表わしきれないことを表現するという重要な役割を担って（永井1996：140-141）」おり、「複合動詞の使用が少ないと語彙的にどことなく単調で幼い感じを受ける（姫野1975）」ということから、複合動詞の使用がないと、その結果、レベルにも影響を及ぼすと言えよう。

以上のことより、日本語母語話者に比べ、中国人学習者は複合動詞の使用ができておらず、学習者のレベルと複合動詞の習得状況は比例することが分かる。

次に、それぞれのタスクごとにどのような複合動詞が使用されていたのかを考察していく。

4. タスク10における複合動詞の使用状況

ここでは、タスク10における実際の複合動詞の使用を考察する。

以下の表3は、タスク10において使用されていた複合動詞を出現頻度順に

表にしたものである。なお、前項動詞をV1（「慣れ親しむ」の場合「慣れ」がV1）、後項動詞をV2（「親しむ」がV2）と示す。

【表3 タスク10における複合動詞の使用状況】

J		C	
V1+V2	出現数	V1+V2	出現数
慣れ親しむ	3	し始める	4
使いこなす	2	踏み出す	1
取り入れる	2	受け始める	1
押し付ける	1	使い慣れる	1
成り立つ	1	教え込む	1
持ち合わせる	1	触れ始める	1
取り組む	1	有り得る	1
やり過ぎる	1	引き出す	1
成り兼ねる	1	し切る	1
成り得る	1	繰り返す	1
見掛ける	1	総計	13
し過ぎる	1	誤用	2
言い切る	1		
総計	17		

タスク10では、日本語母語話者、中国人学習者、両者ともに使用している複合動詞は見られなかった。

日本語母語話者が一番使用していたのは「慣れ親しむ」という複合動詞で、3名が使用している。場面としては、早期英語教育に賛成する場面で、なぜ賛成するのか理由を述べる部分で使用されている。

【表4 日本語母語話者 「慣れ親しむ」の使用文脈】

J 013	英語そのものに慣れ親しませるようなカリキュラムであれば行ってもよいのではないかと思います。
J 015	中学や高校では必ず習うものなので、早いうちから慣れ親しむことはその後の学習に役立つのではないかと思うからです。
J 028	文法を初期から始めることには賛成できませんが、英語になれ親しむという意味での英語教育ならば、とても効果的であり良いと思います。

同様の場面で中国人学習者がどのような文を書いているか比較してみると、表5のようにまとめられる。

【表5 中国人学習者 早期英語教育に賛成する理由を述べる文脈】

C003	まず、自分の経験から見れば、私は10才に早く中学校に入って、英語を勉強し始めました。
C046	外国語というのは、早いうちに勉強し始めたほうが記憶に残りやすく、また本場の発音に1番近い話し方を身につけやすいと見られています。また自らの経験でいうと、私は小学生1年生から英語に触れ始め、また中学校1年生の時から日本語を勉強し始めたのです。
C047	早い時期に英語などの外国語を覚えていたら、外国語の発音もきれいになり、話し方も流暢になり、外国人なまりを少なくすることができます。
C049	また、小学生3年生からだど子供のかんじょう感性で楽しく学ぶこともでき、よりはやく英語に親しむことができるのではないかと思います。
C058	やはり英語は共通言語になりつつある今日という時代では、英語教育はいずれ行わなければならないものであり、ならば早く始めたほうが馴染みやすいと思います。

日本語母語話者同様、複合動詞を使用しているのだが、「慣れ親しむ」ではなく、「～し始める」の使用が見られる。そのため、中国人学習者における複合動詞で一番多かった複合動詞は「し始める」になったと考えられる。ある中国人学習者に「し始める」という複合動詞について聞いたところ、「『し始める』は学習していて始めのほうに出てくるから簡単である」といった意見や、「中国語にも、『し始める』に相当する語がある」ということだった。また、「早い時期に～覚えていたら」「親しむことができる」「馴染みやすい」のように複合動詞ではなく、他の表現で表しているものも見られた。

次に、下記の表6のように後項動詞に注目してみると、確かに中国人学習者は「V1 + 始める」をよく使用していることが分かる。日本語母語話者は後項動詞に「始める」が1例もないのだが、中国人学習者は「し始める」のほか、「触れ始める」「受け始める」と異なり語数では3例、延べ語数では6例見られる。これは、「V1 + 始める」が学習項目に入っている、もしくは、母語からの影響である可能性が高い。次いで使用頻度が高かったのは「V1 + 出す」である。「V1 + 始める」や「踏み出す」の「V1 + 出す」はアスペクト形式の複合動詞であり、これらは比較的習得しやすい複合動詞であると考えられる。

【表6 タスク10における後項動詞の使用状況】

J			C		
V1	V2	出現数	V1	V2	出現数
慣れ	親しむ	3	し	始める	4
使い	こなす	2	触れ		1
取り	入れる	2	受け		1
やり	過ぎる	1	踏み	出す	1
し		1	引き		1
取り	組む	1	有り	得る	1
成り	兼ねる	1	教え	込む	1
成り	得る	1	繰り	返す	1
押し	付ける	1	使い	慣れる	1
持ち	合わせる	1	し	切る	1
見	掛ける	1	総計		13
成り	立つ	1	誤用		2
言い	切る	1			
総計		17			

5. タスク11における複合動詞の使用状況

次にタスク11に出現した複合動詞を表7に示し、考察する。

【表7 タスク11における複合動詞の使用状況】

J		C	
V1+V2	出現数	V1+V2	出現数
慣れ親しむ	1	し始める	3
見付ける	1	引き出す	2
言い切る	1	やり出す	1
組み立てる	1	習い始める	1
追い付く	1	取り入れる	1
総計	5	受け始める	1
		し切る	1
		乗り遅れる	1
		持て囃される	1
		取り組む	1
		総計	13
		誤用	3

ここで一番注目したいのは、3節でも指摘したが、中国人学習者の複合動詞の使用が日本語母語話者に比べ、非常に多いということである。表8に日

本語母語話者の使用例を載せる。

【表 8 日本語母語話者 複合動詞の使用文脈】

J002	言い切る	この国際化の社会の中で、「日本語だけで十分」とは <u>言いきれない</u> と思う。
J004	見付ける	それぞれの子供たちが自分を表現する手段を <u>見つけさせてあげたい</u> な。
J009	追い付く	なぜなら他の多くの国では早くから英語教育が盛んなのに、日本はまだ全然 <u>追いついていない</u> から。
J009	慣れ親しむ	早いうちから他の言語に <u>慣れ親しむ</u> ことは悪いことじゃないと思うしね。
J012	組み立てる	日本語との相違から西欧人なりの論理の <u>組み立て方</u> を学ぶ、っていうのが大事な目標だと思うから、

これら使用されている複合動詞を見ると、「言い切れない」「見つけさせる」「追いつく」「組み立てる」などは、形は「V1 + V2」であるが、前項動詞と後項動詞の個々の意味からでは予測はできない、辞書の見出し語として載るような語彙的複合動詞である²。

では、タスク10で複合動詞を使用していた日本語母語話者は、タスク11ではどのような文を書いているかを見てみる。

【表 9 日本語母語話者 タスク10とタスク11の比較】

J 002	T-10	もちろん授業の進め方によっては、反対に「 <u>英語嫌い</u> 」を増やすことに <u>なりかねない</u> と思いますし、現状では小学校の先生が英語をどう教えられるのかという問題もあると思いますが、言いきれなくなっていると思います。
	T-11	もちろん授業の進め方にもよると思うけど…やり方によっては <u>英語が嫌いになっちゃう子も出てくる</u> と思うしね。
J 015	T-10	中学や高校では必ず習うものなので、 <u>早いうちから慣れ親しむ</u> ことはその後の学習に役立つのではないかと思うからです。
	T-11	中学からは絶対習うんだし、 <u>早いうちに慣れておいた方が</u> あとでちゃんと勉強する時にもそんなに抵抗なく始められるんじゃないかと思うので。

J 017	T-10	グローバル社会の中で英語を <u>使いこなせる</u> のは非常に良いことだと思えますが、それはあくまで自国の文化、言語を確立した上で行うべきだと思います。
	T-11	だって、実習行って思ったけど、小学3年生って、まだまだ <u>日本語も上手く使えてない</u> し。知ってる言葉も少ないしね。

タスク10は教師へ向けた文章、タスク11は友人に向けた文章である。J 002は、タスク10では「英語嫌い」を増やすことになりかねないと複合動詞を使用していたが、タスク11では、「英語が嫌いになっちゃう子も出てくる」のようにくだけた言い方になっており、複合動詞を使用していない。同様に、J 015は「慣れ親しむ」→「慣れておいた方が」、J 017も「使いこなす」→「上手く使えていない」のように別の表現を使用している。タスク10において複合動詞を使用していたすべての日本語母語話者が同様の言いかえを行っているわけではないので、これらについては更なる検証が必要だが、場面だけではなく、文体差が複合動詞の使用に影響を及ぼす可能性が窺える。そのため、タスク10に比べ、タスク11では日本語母語話者の使用数が減少したと考えられる。

では、中国人学習者はどうだろうか。表10にタスク10と11の比較を示す。

【表10 中国人学習者 タスク10とタスク11の比較】

H	C001	T-10	私も中国の小学校で3年の時から英語の <u>授業を受け始めていて</u> 、それにつづき中、高校で一貫して学んできたからです。
		T-11	まず私は中国で小学校3年から英語の <u>授業を受けはじめていて</u> 、後で早めに始めてよかったなと思ったのは一つ。
M	C006	T-10	どうやって <u>子供の興味を引き出すか</u> 考えなければならないと思います。
		T-11	また、どうやって <u>子供の興味を引き出すか</u> についても工夫する必要があると思うよ。
L	C050	T-10	年齢が若い子供は、 <u>新しいものに対する好奇心に満ちて、勉強したい気持ち</u> が強いです。
		T-11	第二、早期教育だから、つまらない授業のやり方ではなく、 <u>興味を重んじる行式</u> を取るの、 <u>子供たちの興味を引き出せる</u> 。

C 001と C 006は、文末は変化しているが、「授業を受け始めていて」「子供

の興味を引き出すか」のようにその前の複合動詞の部分は全く変化していない。C050は教師に対する文のときには複合動詞が使用されておらず、友人に向けた文のときには「子供たちの興味を引き出せる」と複合動詞を使用している。もちろん、C050も文末は教師のときには「です・ます体」で書いており、友人のときには「だ・である体」で書いているのだが、その前の部分のモードチェンジは上手く行えていないことが分かる。中国人学習者の場合は、文末は文体差が使い分けられているのだが、語彙については文体差が習得できていないことやそもそもの語彙数が不足しているために、タスクが異なっても複合動詞の使用に影響が見られなかったと考えられる。しかし、これについても先ほどの日本語母語話者同様、更に検討する必要がある。

次に、後項動詞に注目をし、考察を行う。

【表11 タスク11における後項動詞の使用状況】

J			C		
V1	V2	出現数	V1	V2	出現数
見	付ける	1	し	始める	3
慣れ	親しむ	1	受け		1
組み	立てる	1	習い		1
言い	切る	1	やり	出す	1
追い	付く	1	引き		2
総計		5	乗り	遅れる	1
			取り	入れる	1
			持て	囃される	1
			し	切る	1
			取り	組む	1
			総計		13
			誤用		3

複合動詞の使用自体、中国人学習者のほうが13例と多いのだが、タスク10のとき同様、中国人学習者の上位には「V1 + 始める」「V1 + 出す」のAspect表現が来ており、これらは、学習項目であることと、母語の影響が要因であると考えられる。また、タスク10で使用している複合動詞で、タスク11でも使用しているものは「し始める」「受け始める」「引き出す」「し切る」と4種類ある。一方、日本語母語話者のほうは、使用数は減少しているものの、タスク10と同じ複合動詞は「慣れ親しむ」「言い切る」の2種類しかない。このことから、中国人学習者は日本語母語話者よりも、決まった複合動詞を

多用する傾向があると言えよう。

6. タスク12における複合動詞の使用状況

次に、タスク12の使用について考察をする。表12がタスク12で日本語母語話者と中国人学習者それぞれが使用した複合動詞の延べ語数である。網掛けの部分、日本語母語話者、中国人学習者どちらにも使用が見られた複合動詞である。

まず、出現数の総計を見ると、日本語母語話者は109例、中国人学習者は49例である。だが、異なり語数を見ると、日本語母語話者は41、中国人学習者は35である。出現数だけを見ると一見、日本語母語話者は出現数が多いので、さまざまな複合動詞を使用しているのだろうと思ってしまうが、異なり語数を比較すると41例と少ない。つまり、日本語母語話者はかなり決まった複合動詞をみんなが使用していることが分かる。

では、その複合動詞は何かというと、26例と多数使用された「見付ける」である。この複合動詞は、中国人学習者にも使用が見られるが、1例しかない。日本語母語話者は、

- (1) J 003 すると、「ひこぼし」という、とても働き者の男性を見つけ
ました。
- (2) J 004 「はたらきもののおりひめに合う、まじめな青年を見つけ
よう」

のように、織姫の父である神様が見付けるという話のため、9割近くの人が使用していたが、中国の場合は、神様が見付けず、二人が出会って恋に落ちてしまったり、織姫が天から降りてきて知り合ったりし、ストーリー自体が異なるために出現が見られない場合と、他の表現を使用している場合が見られた。

そこで、次に他の表現を使用していたものを表13に示す。

【表12 タスク12における複合動詞の使用状況】

異なり	J		異なり	C	
	V1+V2	出現数		V1+V2	出現数
1	見付ける	26	1	愛し合う	5
2	出会う	12	2	数え切る	4
3	引き離す	11	3	降り出す	4
4	見兼ねる	9	4	見分かる	3
5	愛し合う	5	5	知り合う	2
6	探し始める	3	6	探し始める	2
7	織り続ける	3	7	し始める	1
8	やせ細る	2	8	泣き始める	1
9	取り戻す	2	9	待ち合わせる	1
10	取り組む	2	10	泣き出す	1
11	泣き暮らす	2	11	見付ける	1
12	泣き崩れる	2	12	追い出す	1
13	暮らし始める	2	13	言い返す	1
14	巡り会う	1	14	連れ戻す	1
15	突き落とす	1	15	呼ばれ始める	1
16	探し回る	1	16	引き離す	1
17	見詰め合う	1	17	やり始める	1
18	引き裂かれる	1	18	待ち望む	1
19	泣き続ける	1	19	降り始める	1
20	増し始める	1	20	探し出す	1
21	見合う	1	21	付き合う	1
22	着飾る	1	22	追い掛ける	1
23	見上げる	1	23	暮らし始める	1
24	泣き悲しむ	1	24	怒り出す	1
25	入れ替える	1	25	抱き締め合う	1
26	引き連れる	1	26	落ち込む	1
27	繰り出す	1	27	抱き合う	1
28	落ち込む	1	28	思い合う	1
29	待ち望む	1	29	放り投げる	1
30	考え付く	1	30	思い出す	1
31	繰り返す	1	31	連れ去る	1
32	思い付く	1	32	思い浮かぶ	1
33	働き始める	1	33	話し掛ける	1
34	惹かれ合う	1	34	出掛ける	1
35	見掛ける	1	35	織り掛ける	1
36	取り合う	1		総計	49
37	放り出す	1		誤用	8
38	明け暮れる	1			
39	見付出す	1			
40	し始める	1			
41	呼び寄せる	1			
	総計	109			

【表13 「見付ける」の代わりに他の表現を使用していた場合】

H	C001	神様は、娘にいい婿を <u>探さない</u> と思って、彦星という人を●姫 ³ と結婚させたのです。
H	C010	美しい織女は大きくなって、神さまは織女のために夫を探した。
H	C048	それで神さまがむすめのために、お婿さんを <u>探し出</u> しました。
H	C058	織姫が成人を向かえ、神様は織姫を愛して二人で一生を送ってくれる人を探し始めた。
H	C002	やっと、銀河の近くに住むいい男を <u>見つかり</u> ました。
M	C005	結局、ギャラクシーの近くに牛を飼っている若い男性を <u>見つかり</u> ました。

中国人学習者は、「見つけよう」ではなく、「探さない」とや「探した」のように動詞のみを使用する場合、「探し出した」「探し始めた」のように他の複合動詞を使用している場合、「男を見つけました」「男性を見つけました」のように自他の誤用の場合という3つのパターンが見られた。

また、日本語母語話者が3番目に多く使用していた「引き離す」も中国人学習者は他の表現を使用していた(表14参照)。その場合はレベルにかかわらず、「引き離す」ではなく、「離れる」もしくは「別れる」のような動詞のみを使用している学習者が多く、「分かれ離れ」や「離れ離れ」(表にはなし)といった表現も見受けられた。「引き離す」が使用できていない要因については、まだ明確にはできないが、学習項目や母語の影響があると考えられる。

【表14 「引き離す」の代わりに他の表現を使用していた場合】

H	C001	●姫と彦星はとうとう天の川の西と東にある遠く離れたところに <u>連れていか</u> れ、べつべつの場所で暮らすことになりました。
H	C003	文句を聞いておこった王様は、牛郎と織姫を <u>別れ</u> させた。
M	C038	織姫と彦星を「銀河」という広い川の兩岸に <u>別れ</u> させ、
M	C054	罰として、二人が <u>分かれ離</u> れになった。
L	C008	おりひめとうしかいはこのようにはなされた。
L	C012	銀河という天河を作って永遠にその二人を <u>離</u> しました。

また、複合動詞を使用しない場合として、動詞のみを使うのではなく、副詞を使用する例も見られる。例えば、日本語母語話者は「泣き続ける」の使用が1例見られるが、中国人学習者は1例もない。その部分をどのように表

現しているか見てみると、表15のように、「毎日～V」と副詞を使用していることが判明した。

【表15 「泣き続ける」の代わりに他の表現を使用していた場合】

H	C002	織姫はとても悲しくて、毎日泣いていました。
M	C006	夫と分けた織姫は悲しんで、毎日涙ばかり流していた。
M	C010	毎日笑顔もなくてないてます。
L	C012	強いられて分けられたから、織女は毎日毎日泣いていた。

このように、複合動詞を使用しない場合の表現として注目しなければならないのは、動詞だけではなく、複合動詞の種類により、副詞の成分にも注目していかなければならないことが分かる。

一方、中国人学習者において多数使用が見られたのが、「愛し合う」5例、「降り出す」4例、「数え切る」4例である。特に、「降り出す」と「数え切る」は日本語母語話者には使用が見られない複合動詞であった。中国人学習者は、「7月7日にやっと織姫と彦星が会えると思ったら突然雨が降り出したところ、数えきれないほどのカササギが飛んできて橋を作ってくれたため、二人は無事に会えることができた」という話を書く学習者が多く、二つの複合動詞の使用頻度が高くなっている。これは、ストーリーの違いが起因しているものと推測される。金澤編(2016)によると、タスク12を行う際には、まず、「七夕伝説」というストーリーを読んでから作文を書いていると説明があったため、2節において「日本語母語話者も中国人母語話者も同一状況での使用実態が考察できると考える」と書いた。しかし、実際に複合動詞の使用結果を考察してみると、タスクを行う際に中国人学習者に読んでもらったストーリーの知識以外にも、自分が幼少期などに読んだり聞いたりして、覚えたストーリーの知識も入ってきて、ストーリーの違いが出てしまったため、日本語母語話者には使用が見られない複合動詞が出現しているのではないかと推測できるのである。

そして、下記の表16のように後項動詞に注目してみると、中国人学習者はタスク10、11のとき同様、アスペクト動詞である「V1+出す」「V1+始める」の使用が上位にきている。また、他のアスペクト形式として「～の途中である」という意味を表す「V1+掛ける」(「織り掛ける」)の使用もある。これらのことから、中国人学習者は比較的アスペクト形式の複合動詞

【表16 タスク12における後項動詞の使用状況】

J				C		
V1	V2	出現数	合計	V1	V2	出現数
見	付ける	26	26	思い	合う	1
巡り	会う	1	13	抱き		1
出		12		付き		1
引き	離す	11	11	知り		2
見	兼ねる	9	9	愛し		5
増し	始める	1	8	思い	出す	1
し		1		探し		1
働き		1		泣き		1
暮らし		2		怒り		1
探し		3		追い		1
見	合う	1	8	降り	始める	4
惹かれ		1		呼ばれ		1
取り		1		し		1
愛し		5		降り		1
泣き	続ける	1	4	泣き	始める	1
織り		3		暮らし		1
取り	組む	2	2	やり	掛ける	1
泣き	崩れる	2	2	探し		2
泣き	暮らす	2	2	織り	掛ける	1
やせ	細る	2	2	追い		1
取り	戻す	2	2	出		1
繰り	出す	1	2	話し	切る	1
放り		1		数え		4
考え	付く	1	2	見	付かる	3
思い		1		言い	1	
引き	連れる	1	1	見	付ける	1
呼び	寄せる	1	1	連れ	戻す	1
着	飾る	1	1	引き	離す	1
見	詰め合う	1	1	思い	浮かぶ	1
見	掛ける	1	1	落ち	込む	1
泣き	悲しむ	1	1	待ち	望む	1
明け	暮れる	1	1	放り	投げる	1
落ち	込む	1	1	待ち	合わせる	1
待ち	望む	1	1	連れ	去る	1
探し	回る	1	1	抱き	締め合う	1
突き	落とす	1	1	総計		49
見	出す	1	1	誤用		8
引き	裂かれる	1	1			
繰り	返す	1	1			

は使用しやすい傾向が見て取れる。

ただ、同じアスペクト形式でも「V + 続ける」は先ほど見たように、「毎日～V」と副詞を使用している場合もあるため、一言でアスペクト形式といっても、使用しやすいアスペクト形式の複合動詞と、しにくいものがあるようである。これらのことについては、今後調査を続けていきたいと思う。なお、「V1 + 合う」は中国語にも同様の形式があるため、使用しやすいのではないと思われるが、こちらも今後詳細な調査が必要である。

また、中国人学習者の使用状況を見ると、上位4語「V1 + 合う」「V1 + 出す」「V1 + 始める」「V1 + 掛ける」と前に種々の前項動詞を付け、表現を豊かにしていることが分かる。その反面、日本語母語話者において使用の多い「見兼ねる」「泣き崩れる」「やせ細る」などの語彙的複合動詞についてはバリエーションが少ない。これらは、学習項目になっているかどうかというのが大きく関与していると思われるが、「V1 + 合う」などのような日本語母語話者も使用が高い統語的複合動詞⁴は早い段階で教えることにより、更に表現を豊かにすることができるであろう。

7. 中国人学習者に見られた誤用

最後に、中国人学習者の誤用について考察を行う。

中国人学習者の誤用は、全部で13例であった。表17にタスク番号と学習者、そして誤用とその誤用が含まれる本文、また訂正例と誤用の要因をまとめた。

まず、誤用の要因として多かったのが、「自他の間違い」で5例見られた。中国人学習者にとって助詞は母語にないため習得が難しく、それに加え動詞も自動詞か他動詞か異なってくるため、間違いやすいと考えられるが、複合動詞そのものが習得できていないというわけではない。

次いで多かったのは、「複合動詞の間違い」で4例であった。これらは、複合動詞の意味自体をとり間違えているために起こったと考えられ、複合動詞の習得が不十分であったため起きたと言えよう。しかし、C059の誤：「持ち上げられた」→正：「取り上げられた」、C039の誤：「見掛けられる」→正：「見付けられる」、C049の誤：「離れ過ぎし」→正：「離れ暮らし」は、前項動詞、もしくは後項動詞のどちらか一方は間違っていないため、複合動詞自体を全く習得できていないのではなく、一部の意味が理解できていない

【表17 中国人学習者の誤用】

タスク	レベル	学生	誤用	本文	訂正	要因	
1	T-10	H	C058	働きをかける	逆に母語の学習、言語の学習、そして個人の成長に良い働きをかけてくれる可能性が十分あると私は思います。	働きかけてくれる	複合動詞を使用していない
2	T-10	M	C054	勉強し始める	しかし、母のおかげで、私は入学する直前の夏休みで少しだけ英語を勉強しはじめました。	英語を勉強し始める	自他
3	T-11	H	C046	触れ初める	やっぱり早く触れ初めて後は楽だなと思うよ。	触れ始める	漢字間違い
4	T-11	M	C040	引き受ける	そうしたら、子供たちは英語のことをただの冷めたい言語ではなく、もう一つの表現の方式として引きまうけることができるじゃん。	受け止める	複合動詞の間違い
5	T-11	M	C059	持ち上げる	早期英語教育もこういった背景の下で持ち上げられたが、いわゆるグローバルに乗り遅れるな、との発想です。	取り上げる	複合動詞の間違い
6	T-12	H	C002	見付かる	やっ、銀河の近くに住むいい男を見つかりました。	男を見付ける 男が見付かる	自他
7	T-12	H	C039	見掛けられる	今日も天気がいいので、牛飼いはまた牛をつれて野原へ出かけたのでした。そこを織姫に見かけられました。	織姫に見付けられる	複合動詞の間違い
8	T-12	H	C049	離れ過ぎらす	二人は離れ過ぎ、前のように自分たちの仕事を一生懸命やっていました。	二人は離れ暮らし 二人は離れて暮らし	複合動詞の間違い
9	T-12	M	C005	見付かる	結局、ギャランシーの近くに牛を飼っている若い男性を見つかりました。	男性が見付かりました。 神様は男を見付けました。	自他
10	T-12	M	C038	やり遂げる	が、前提はふたりともきちんと自分の仕事をやり遂げることです。	やり遂げる	濁音
11	T-12	L	C012	飛び降りる	だから玉帝は自ら人間社会へ飛び降りて●しに●した結果、ある農業に携る農民がみつかりました。	降りて	動詞を使用していない
12	T-12	L	C036	見付かる	だんだん“織女”が大きくなって、神さんのちは自分のむすめにお夫をみつかつてあげたいと思って。	夫を見付けて	自他
13	T-12	L	C050	見付かる	あっちこっち探して、やっ民間のいい男を見つかった。	男を見付けた 男が見付かった	自他

可能性があるのだろう。なお、中国語の「過ごす」は「暮らす」の意味があるとのことで、母語からの干渉も考えられよう。

さらに、C058のように本来複合動詞を使用すべき場面で「複合動詞を使用していない」ものや、C012のように複合動詞ではなく動詞を使用すべき場面で使用していないものが1例ずつあった。これらについては、複合動詞自体の習得ができていないために起こったものと考えられるため、そもそも複合動詞がどのような働きを持っているのかから教える必要があると考えられる。

また、C049の「漢字間違い」やC038の「清濁」の間違いについては、直

接複合動詞の習得とは関係ない。

レベル別に見てみると、下位群（3名）よりも、中位群（5名）、上位群（5名）に誤用が目立つ。やはり、レベルが上がるにつれ、複合動詞の使用自体も増えるため、その分誤用が増えてくると考えられ、レベルと使用頻度、そして誤用には相関性があることが窺える。

8. おわりに

以上、『YNU書き言葉コーパス』を用い、日本語母語話者との使用状況と比較をしながら、中国人学習者はどのような複合動詞が使用でき、反対にどのような複合動詞が使用できていないのか、習得状況を考察してきた。

その結果、まず、全体の使用傾向（3節）から

- ① 日本語母語話者に比べ、中国人学習者は複合動詞の使用ができておらず、学習者のレベルと複合動詞の習得状況は比例することが分かった。また、タスク10～12の結果（4節～7節）から、②～⑥の5点が見えてきた。
 - ② 中国人学習者は「V1+始める」「V1+出す」「V1+掛ける」のアスペクト形式の複合動詞や、「V1+合う」などの統語的複合動詞の使用が多い。これらは学習項目として勉強した、もしくは母語にあるため使用しやすい可能性が高い。
 - ③ その反面「慣れ親しむ」「見付ける」などの語彙的複合動詞の使用はバリエーションが少ない。
 - ④ それらを言い表したいときには、「し始める」「探し出す」という他の複合動詞の使用、もしくは、「探す」のように動詞のみで表現をしていた。
 - ⑤ それ以外にも複合動詞を使用しない場合には、「毎日～V」のように副詞成分で補うパターンも見られ、複合動詞の種類により代替方法が異なることも判明した。
 - ⑥ なお、中国人学習者の誤用のパターンは、複合動詞の意味の取り違いのほか、自他の間違いや漢字や清濁の間違いがあり、学習者のレベルがあがるにつれ、誤用も増える傾向が見られた。
- そして、中国人学習者の習得状況と日本語母語話者の使用実態とを合わせて考察することにより、複合動詞の特徴として次の2点も明らかになった。
- ⑦ 以前より、複合動詞は場面により使用状況に差が出ると指摘されていた

が、日本語母語話者の使用実態を見たところ、同じタスクであっても送り先が教師か友人かにより複合動詞の使用状況が異なり、文体差があることが見られた。これらは、複合動詞の種類により異なると考えられる。

- ⑧ さらに、⑤と⑦のことから、複合動詞はその種類により、言いかえられるものと複合動詞でしか言い表せないものの2種類があることが見えてきた。

永井(1996)は、どこまで複合動詞の使用を促すかが難しいと述べている。例えば、以下のようなものである。

- (1) 今韓国では、日本の大衆文化を受け入れるかどうかをめぐって賛否両論が沸いている。 (韓国人学習者の作文)
- (2) 今韓国では、日本の大衆文化を受け入れるかどうかをめぐって賛否両論が沸きあがっている。 永井(1996:148)
- (3) (ストレスがたまったときは) ずっと一人で考えすぎるより、近くの公園とか山、または海に行って、大自然を見ながら広い心と目で再びまわりの事を考えた方がいいと思う。 (韓国人学習者の作文)
- (4) (ストレスがたまったときは) ずっと一人で考えこむより、近くの公園とか山、または海に行って、大自然を見ながら広い心と目で再びまわりの事を考え直した方がいいと思う。 永井(1996:148)

(1) は不適當であるため、(2) のように添削する必要があると考えられるが、(3) の文はやや不自然のため、永井が(4) のように改めた。しかし、「考え直す」は「考える」のみでよいとする人もいるだろう。

複合動詞は、複合動詞でしか表現ができないものと言いかえてもいいもの、またどちらでもいいものの3種類があると仮定できる。5節で述べた「タスク11」でも複合動詞を使用した例を見たが、あのような語彙的複合動詞についてはそれでしか言い表せないものである。しかし、「タスク10」では複合動詞を使用していたが、「タスク11」では言いかえていたものというのは、言い換えてもいい、もしくは複合動詞を使用してもなくてもどちらでもいいものだと考えられる。そこには一体どのような法則があるのか、またどういった複合動詞が各々該当するかについては今後の課題としたい。

【参考文献】

- ・影山太郎 (1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- ・金澤編 (2016)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- ・志賀里美 (2015)「複合動詞における文法化の一考察」『日本語の文法化と構文化』ひつじ書房
- ・陳曦 (2006)「中国人学習者における複合動詞の習得に関する一考察：学習者の作文算出に基づいて」『タクロス 国際コミュニケーション論集』3 名古屋大学大学院国際開発研究科
- (2007)「学習者と母語話者における日本語複合動詞の使用状況の比較－コーパスによるアプローチ－」『日本語科学』22 国書刊行会
- (2008)「日本語学習者と母語話者における日本語複合動詞使用状況の比較-作文データベースを用いて-」『小出記念日本語教育研究会』16
- ・寺村秀夫 (1984)『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版
- ・永井鉄郎 (1996)「実践報告 日本語複合動詞の教育について」『日本語教育』88号 日本語教育学会
- ・長嶋善郎 (1976)「複合動詞の構造」『日本語講座四巻 日本語の語彙と表現』大修館書店
- ・姫野昌子 (1975)「複合動詞『つく』と『つける』」『日本語学校論集』2 東京外国語大学
- (1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- ・由本陽子 (2005)『複合動詞・派生動詞の意味と統語モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房
- ・日本国語大辞典第二版編集委員会 小学館国語辞典編集部委員会編『日本国語大辞典 第二版 第11巻』(2001) 小学館

註

- 1 「出会う」も「出る」「会う」と使用でき、「巡り会う」のように前項動詞にもバリエーションがあるため、今回は1語としては取らず、複合動詞として抽出した。
- 2 「受け始める」は、「受けることを始める」のように前項動詞と後項動詞の個々の動詞の意味から類推することができるが、「見付ける」は「見ることを付ける」ではなく、「発見する」と前項動詞と後項動詞から意味類推が不可能である。

- 3 このコーパスの元のデータは手書きであるため、データ化する際に読めない文字もあり、その際には●と表記されている。
- 4 複合動詞の研究は、主に「断ち切る」「思い切る」などのV1に直接結合する語彙的複合動詞と「食べ切る」「疲れ切る」などのV1に直接結合するのではなく、補助動詞的に結合する統語的複合動詞の二者を区別し、研究されることが多い。(志賀 2015 : 206)

